展示解説シートM／Ver. 1.1

NIBUTANI

モ　シ　リ

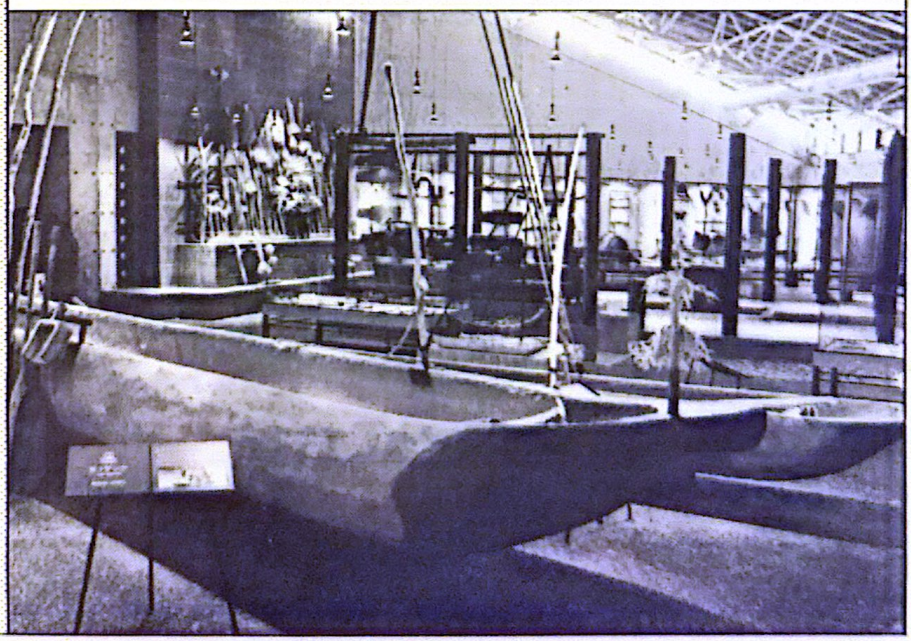
大地のめぐみ

第３展示ゾーンの<モシリ>では、農耕や狩猟、運搬、それに葬送などに関する資料を展示しています。

なかでも、桂の大木を使って作られた丸木舟は日本一の大きさ。熊を獲る仕掛け弓も迫力ありますよ。

コタンコロカムイさんとのＱ＆Ａでは、アイヌ民族に関する知識を整理してみてください。

伝統の技を活かした現代の民芸も紹介しています。アイヌ文化の里二風谷で現在活躍中の工芸家たちが腕をふるった作品の数々。見ごたえがあります。



平取町立
二風谷アイヌ文化博物館

コタンコロカムイのこえ　3

展示室内ではコタンコロカムイ＝村の守り神であるシマフクロウが案内役。第3展示ゾーン＜モシリ＞内の解説パネルに記されたその声を、ここに再録してあります。

ハルコロ
豊かな幸

春になると、畑に火入れして、ヒエやアワ、イナキビ、豆なんかをまいたもんだ。それと山菜採りだな。秋に収穫した穀物や、保存用に干した山菜なんかはプ＝倉に入れておく。

こんな仕事はだいたい女がしていた。

男はもっぱら山や川でえものをとる。

熊をとるのは秋か、春早く。犬をつれて何日も追いかける。仕掛弓も使った。

鹿はかんたんにとれたよ。今でいえば牧場に牛がいるようにたくさんいたからな。

カムイカラオンネ
天寿

天寿をまっとうしたような年寄りの弔いのときには、死者にユカラを聞かせる。

ふつうとちがって、いちばんおもしろいところからはじめて、必ず最後まで語り終える。話の続きを聞きたさにこの世に戻ってこないよう、心残りなくあの世へ向かわせるために。

行った先、神の国でも不自由しないように、装束を整え、お椀や鍋、火打ち石に小刀とか、ふだん使っていたものもいっしょに葬った。イヨイタクコテ、引導渡しのことばとともにな。

チェプコイキ
川の漁

「沙流川の流れ、流れの中は、小形のサケや、大形のサケ、競ってさかのぼる、水面のサケは、天日で背が焦げ、川底を泳ぐサケ、腹をすりむき‥‥」。鮭があふれんばかりにのぼる様子を謡ったカムイユカラだよ。

アイヌにとって鮭は主食だ。だからといって、食べる分をこえて必要以上にとったりはしない。保存用には卵を生んだあとの鮭を使う。漁がおわったら、キツネやカラスの分を川のそばに残してくることも忘れなかった。

ウパシクマ
語りつぐ歴史

今とちがって昔のアイヌは文字を使わなかった。いろんなできごとや、先祖がたどった歩みやなんかは、みな記憶して口づたえに語り継いできたんだ。知恵をたくわえた年寄りは心から尊敬されたものだ。

この地には古くから人が住んできた。アイヌが自由に楽しく暮らしていた。だが、大勢の和人が侵略してきてからは、アイヌにとって辛いことが多かった。

いいことも悪いことも、しっかり伝えなければな。これからのためだ

チプサンケ
舟おろしの祭り

言うまでもないことだが、現代に生きているアイヌたちが、昔と同じ暮らしをしているわけではない。すっかり今風な生活だよ。

しかしな、アイヌプリ、先祖から受けついだアイヌ的なものの考え方や、コトバや知恵は、しっかり守っていこうとしている。

チプサンケは、伝統的なアイヌの風習や精神を若者に伝えようと、毎年8月20日に開かれる川舟の祭り。丸木舟で沙流川をくだり、遊ぶ。その時期になったら、また訪ねてきなさい。

アイヌモシリ
人間が生きる大地

「アイヌ」は人間、「モ」は静か、そして「シリ」は土地。

人が生きているこのゆるがぬ大地を、アイヌモシリ というんだ。そこにはな、さまざまな民族が、それぞれのやり方で生きている。おたがいに助けあって、平和に暮らしたいものだな。

いま生きている人たちよ。暮らし方は変わっていっても、「アイヌ ネノアン アイヌ」、人間らしい人間。この心は忘れんようにしよう。

わたしの案内は、これでおしまいだ。

スイ ウヌカラアンロー。また会おう。

展示解説シートK／Ver. 1.1

NIBUTANI

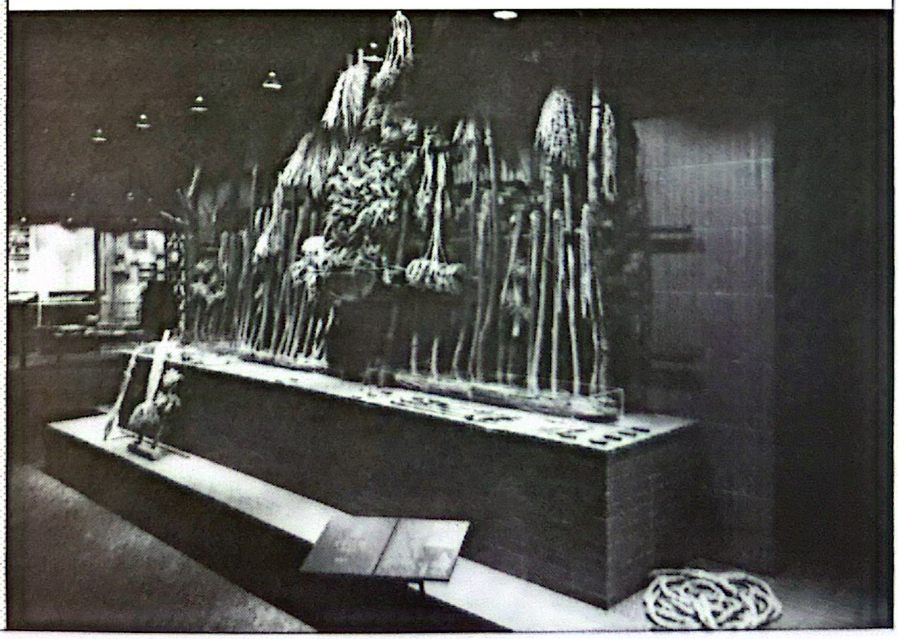
カ　ム　イ

神々のロマン

ここ<カムイ>は主に、祈りや信仰、伝説、物語などの精神文化にふれるための展示ゾーンです。

チセ（家屋）を模した柱が立ち並ぶビデオステージでは、ユカラ（英雄叙事詩）・カムイユカラ（神謡）・ウウェペケレ（昔話）をご鑑賞いただけます。いずれも、ここだけで聴ける珠玉の伝承作品です。

イヨマンテの儀式や、国の重要無形民俗文化財に指定されているアイヌ古式舞踊などを記録した各種ビデオソフトも、ブースで自由にご覧いただけます。



平取町立
二風谷アイヌ文化博物館

コタンコロカムイのこえ　2

展示室内ではコタンコロカムイ＝村の守り神であるシマフクロウが案内役。第２展示ゾーン＜カムイ＞内の解説パネルに記されたその声を、ここに再録してあります。

シシリムカ
沙流川

沙流川のことをアイヌたちはシシリムカと呼んでいた。
ほんとうに河口のあたりがふさがってしまう川という意味だ。たくさんの砂を海へと流す大きな川なんだよ。
自然の恵みの豊かな川だから、アイヌたちはずっと昔からここのほとりで暮らしてきた。
川筋のあちこちに、たくさんの伝説が残っている。人間たちにいろいろな知恵をさずけたオキクルミカムイが、神の国からおり立ったのが、この地だということだよ。

カムイミンタㇻ
神々の祭り場

火の神や水の神は位が高い。神の国では、神々は人間とまったく同じ姿かたちで暮らしている。クマやタヌキの神は、ときどき肉や毛皮を身にまとって人間のところへ遊びに来る。アイヌたちはそう考えていたんだよ。
いま立っているこの場所は、人が住むチセではない。
ここは、神々が集い遊ぶ神の国の祭り場。ほうら、捧げ物がたくさん並んでいる。人間たちが神々に見せよう・聞かせようと、歌い・踊り・語る声も聞こえてくるぞ。

ユカㇻ
英雄の物語

ユカㇻというコトバを聞いたことがあるだろう。ポンヤウンペという若者が活躍する物語のことだよ。長い話だと幾晩も続けて語られる。もちろん、書いたものを見るわけじゃない。全部覚えているんだ。
カムイユカㇻといわれるものもある。これは、サケヘという繰り返しのコトバをあいだに入れながら、調子良く謡われるものだ。
ウウェペケレというのは昔話だな。生活の知恵や教訓をおりこんだ話が多い。
まあ、ここで一度聞いてみなさい。

ウポポ
歌と踊り

まつりのときは女も男も着飾った。
きらきら輝く耳輪や、首飾りを身につけた女たちが炉端に集まり、ウポポを輪唱しはじめると、宴はいよいよ盛り上がってくる。
天高く飛ぶ鶴や、野に遊ぶ鶴をまねた舞い。雨燕が飛びかう様をあらわした踊り。跳ねながら炉のまわりを何回も何回もまわる。
夜が明けるまで続いたものだよ。
近ごろこの踊りが、国の重要無形民俗文化財になったということだ。

トゥキパスイ
捧酒箸

お祈りをするときには、このパスイに酒をつけて神々へ捧げる。
アイヌたちは、これをただの道具ではなく、人間の願いを神へ伝えてくれる雄弁な生き物だと思っていた。人間と神との仲介役だと思っていたのだな。
若い者たちが、何かで言い争っているときなど、年寄りがこれで頭をコツンとやる。すると文句もいわんで静かになったものだ。
とてもだいじなものだけに、工夫をこらして作ったものがたくさん残っているんだよ。

イヨマンテ
熊送り

イヨマンテは、熊の魂を神の国へ送り返す儀式だ。
アイヌにとってたいせつな動物や、使えなくなった道具なんかは、ていねいな感謝といたわりのことばを添えて祈りながら、カムイモシリへ送るんだよ。
とくにな、一年か二年のあいだ家で飼った子熊を送るときは盛大にやった。
近くのコタンだけじゃなく、遠くからもお客を招く。前もって酒をこしらえたり、準備はたいへんだった。
皆でユカㇻを聴き、歌い、踊り明かして、いちばんのまつりだよ。

展示解説シートA／Ver. 1.1

NIBUTANI

アイヌ

人々のくらし

当館の常設展示は、＜アイヌ＞・＜カムイ＞・＜モシリ＞の３つのゾーンに分けて展開されています。

第１ゾーンの＜アイヌ＞では、育児・遊戯娯楽・木彫・衣類・食事・住居などの分野を中心に、人々が日常の生活に用いた民具類を展示してあります。

とくに彫り物や縫い物の紋様などに見られるアイヌ民族の伝統的な技巧や美的センスにご注目ください。

木彫や刺しゅうの作品を参考にしながら文様を描いてみるコーナーもあります。どうぞお試しください。

平取町立
二風谷アイヌ文化博物館

コタンコロカムイのこえ　1

展示室内ではコタンコロカムイ＝村の守り神であるシマフクロウが案内役。第１展示ゾーン<アイヌ>内の解説パネルに記されたその声を、ここに再録してあります。

コタンコロカムイ
村の守り神

わたしはシマフクロウ……。村人たちは、コタンコロカムイ、村の守り神と呼んでいる。
ここらあたりはな、昔も今も、ずっとアイヌ民族が暮らし続けてきた由緒ある土地だ。
これから、わたしが古い時代のアイヌの生活の様子を紹介しよう。あんたたちのおばあちゃんの、そのまたおばあちゃんたちがまだ若かったころ、それより前の話だと思えばいいだろう。
そうそう。「アイヌ」というのは「人間」という意味だ。覚えておくんだよ。

シンタ
ゆりかご

どこの土地、どの民族でもそうだろうが、昔のアイヌも子どもはだいじに育てたよ。
ゆりかごとか子どもが使うものは、精神の良い人や子孫が繁栄している人に頼んでこしらえてもらうようにしていた。
赤ん坊のおしゃぶりは、血を増やす薬にもなるハンの木から作ったものだよ。
子どもたちは遊びながら大きくなる。そして、遊びの中で一人前の人間になるための知恵や技をいつのまにか身につけていくんだ。

ラㅅラㅅノカ
うろこ彫り

男にとってたいせつなことは、刃物を巧みに使えるようになることだった。そうでなければ、猟に必要な弓矢やワナをしっかり作れんからな。
木彫りが上手だということは、狩りがうまく、食べ物に困らんで暮らしていける男だということを示すことになる。
だから年ごろの男は好きな人ができると腕によりをかけて彫り物をして、お目当ての娘に贈る。
相手がそれを身につけて使ったら、「私も…」というサインなんだよ。

イカラカラ
文様を縫い込む

成人する前の娘が身につけなければならないことのひとつは、針仕事だった。
求愛を受け入れた相手には、自分が刺しゅうした手甲や脚半を贈る。それは、ひととおりの仕事をこなせるようになった、妻としてりっぱにやっていける、という証にもなる。
アイヌの文様がいつごろからあったのか、わたしにもわからないくらい古い。丹精をこめた文様の力で着る者を守りたいとか、飾りたいとか、そんな心とともに受けついできたんだろう。

アットゥシ
あつし織

昔のアイヌたちは、野山の草や木のことをよく知っていた。そして、それを実に巧みにいかしながら暮らしたものだ。
あつしという織物に使う糸は、オヒョウの木の皮から作る。春から夏にかけてとくに５月・６月が、この仕事には良い季節だ。沙流川の上流の谷間のものが質がいいと言って、わざわざ出かけて集めてきたりもした。
立ち木の皮をはぐ時も丸裸にしない。四分の三以上は残し、あとは紐でしばっておく。枯らさないための、アイヌらしい心づかいだ。

ウトㅅヌカラ・チセアカラ
結婚・新築

お椀にいっぱい盛ったごはんを新郎新婦二人で半分づつ食べるのが、アイヌの結婚式。
結婚をあらわす「ウトㅅヌカラ」は、お互いを見つめあうという意味なんだよ。
これから結婚する若い夫婦のために、親の家のそばに新居が準備される。
家はチセ。チセアカラは家を建てることだ。
新築のときには、村じゅうから人が集まってきて、あっという間に材料を集め木を組んで、一日で建てあげてしまったものだ。

アイヌ語に触れてみよう！

◎よく使う単語

日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語
人	アイヌ	大地	モシリ	大きい	ポロ
仲間	ウタラ	太陽	チュプ	小さい	ポン
男の人	オッカヨ	山	ヌプリ	頭	サパハ
女の人	メノコ	川	ペッ	手	テケヘ
紳士	ニシパ	沢	ナイ	足	ケマハ
村	コタン	木	ニ	目	シキヒ
家	チセ	花	ノンノ	口	パロホ
神	カムイ	水	ワッカ	耳	キサラハ
大空	カント	火	アペ	春	パイカラ
風	レラ	美しい	ピリカ	夏	サク
雨	アプト	新しい	アシリ	秋	チュク
雪	ウパシ	古い	フシコ	冬	マタ

◎家族

日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語
お父さん	ミチ	おばあさん	フチ	弟	アキ
お母さん	ハポ	お兄さん	ユポ	妹	マタキ
おじいさん	エカシ	お姉さん	サポ	孫	ミッポ

◎生き物

日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語
熊	キムンカムイ	鹿	ユク	うさぎ	イセポ
猫	チャペ	ふくろう	コタンコロカムイ	鮭	カムイチェプ
犬	セタ	猿	アラサルシ	貝	ピパ
馬	ウンマ	たぬき	モユク	えび	パキ
牛	ペコ	きつね	チロンヌプ	ほたる	ニンニンケッポ

◎その他の単語

日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語
板	イタ	岩	イワ	お菓子	ウマイ
色	イロ	温泉	ユ	黄金	コンカネ

◎あいさつや表現

日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語
こんにちは	イランカラプテ	お元気ですか？	エ イワンケ ヤー	これは何ですか？	タアンペ ヘマンタ アン
ありがとう	イヤイライケレ	またあいましょう	スイ ウヌカラアン ロー	どこへ行くのですか？	フナクン エアラパ

◎数の表し方

日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語	日本語	アイヌ語
1	シネプ	5	アシクネプ	9	シネペサンペ
2	トゥプ	6	イワンペ	10	ワンペ
3	レプ	7	アラワンペ	20	シネホッ
4	イネプ	8	トゥペサンペ	100	シネクンクトゥ

【平取町立二風谷アイヌ文化博物館】

アイヌ語地名に使われるアイヌ語を覚えよう！

松浦武四郎（まつうらたけしろう）　北加伊道（北海道）の名づけ親

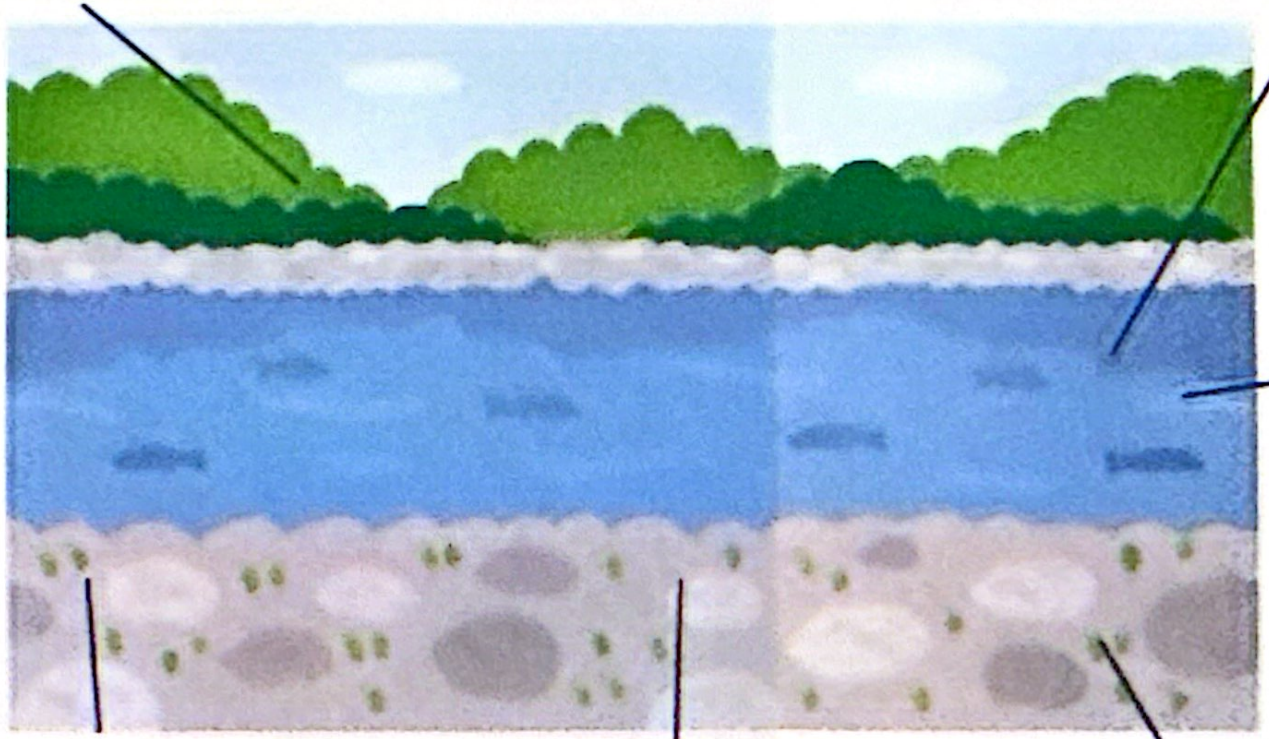
1818（文政（ぶんせい）元）～ 1888（明治 21）年

アイヌ民族の案内により内陸部の情況（じょうきょう）を詳細（しょうさい）に調べて『東西山川取調日誌（とうざいさんせんとりしらべにっし）』85巻（かん）、『東西山川地理取調図（とうざいさんせんちりとりしらべず）』28 枚を著（あら）わしました。

はやし・もり
ニタイ

どろのきばやし
ヤイニタイ

かわ
ペッ



さわ
ナイ

かみのほうのさわ
ペンケナイ

ち・だいち・しま
シ リ

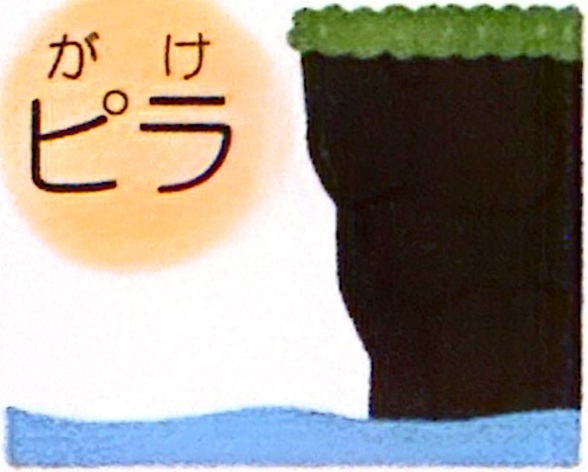
すな
オタ

りく・きし
ヤ

おおきいだいち
ポロシリ(幌尻)

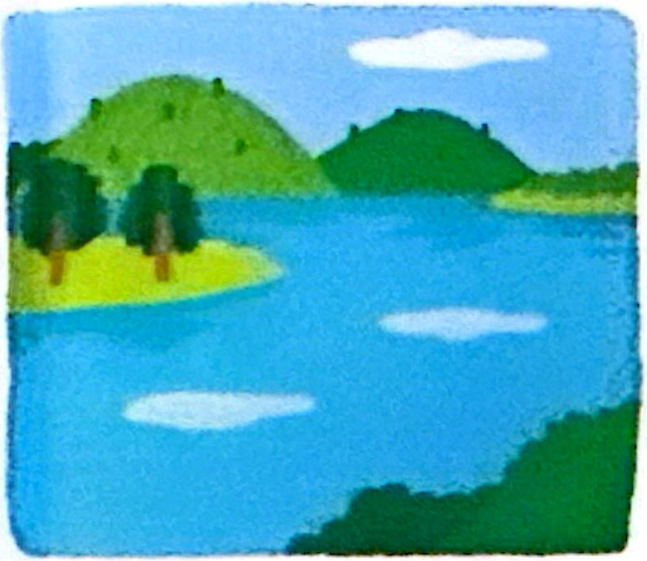
すなはまのちゅうおう
オタノシキ(大楽毛)

がけ
ピラ



がけのあいだ
ピラウトゥル(平取)

みずうみ・ぬま
ト



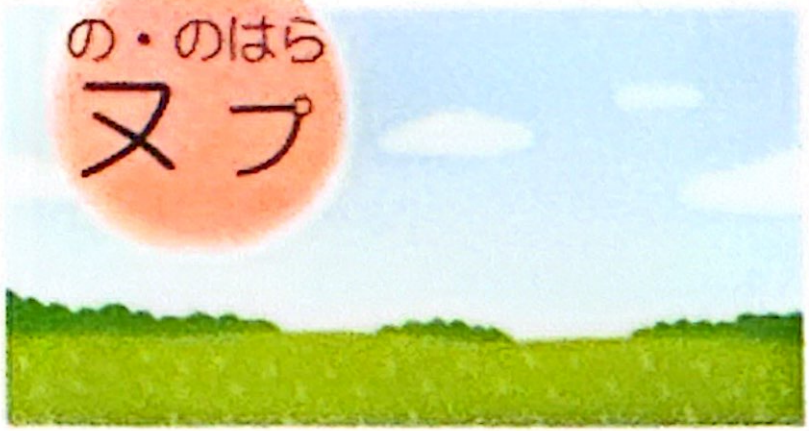
みずうみのきし
トーヤ
(洞爺)

みち
ル

みちにそってくだるかわ
ルペシペッ
(留辺蘂)

たき
ソ

たきがついてるかわ
ソウシペッ(総主別)



ほそいのはら
アネヌプ

かわくおおきい
サッポロ
（札幌）

あしはらのあたま
サ ラ パ (去場)

かみのほうこう
ペンケ

しものほうこう
パンケ

しものほうのさわ
パンケナイ

★この本にでてくるアイヌ語地名

ヤイニタイ（平取町）
ペンケナイ（平取町）
ポロシリ（幌尻／平取町）
オタノシキ（大楽毛／釧路市）
ピラウトゥル（平取／平取町）
トーヤ（洞爺／虻田郡洞爺湖町）
ソウシペッ（総主別／平取町）
ルペシペッ（留辺蘂／北見市）
アネヌプ（平取町）
サラパ（去場／平取町）
サッポロ（札幌／札幌市）
パンケナイ（平取町）

平取町アイヌ文化保全対策室

平取町（額平川流域）と北海道内のアイヌ語地名

動物の名前が付いている地名

平取町アイヌ文化保全対策室

しか
ユク

上の方向しか道たどる　川
ペンケユクルペシペッ（平取町豊糠）

しか　向こう側　通る　さわ
ユクパクシナイ（平取町旭）

しか　登る　川
ユクトゥラシペッ（幾寅/南富良野町）

くま・ヒグマ
キムンカムイ

くまのむさわ
カムイクナイ（平取町貫気別）

ネズミ
エルム

岬
エンルム
（えりも/えりも町）

犬
セタ

下の方向 犬 さわ
パンケセタナイ（平取町貫気別）

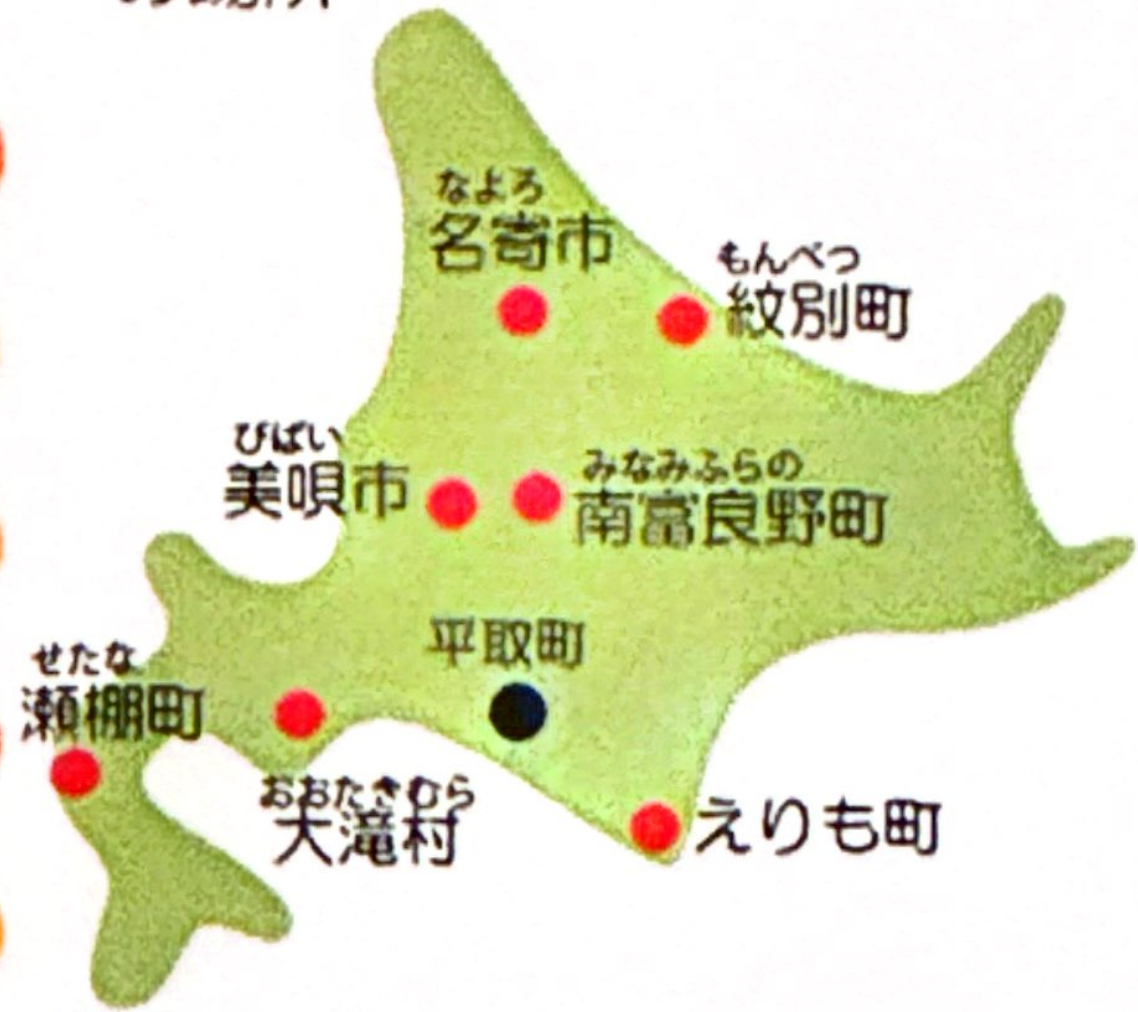
犬 川
セタナイ（瀬棚/瀬棚町）

貝、カワシンジュガイ
ピ　パ

カワシンジュガイ 所
ピパウシ（平取町芽生）

ぬま貝川　カラス貝ある 川
ピパイ、ピパオマナイ（美唄/美唄市）

★この本にでてくるアイヌ語地名の場所



平取町以外のアイヌ語地名：【財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構『アイヌ語地名リスト』2004年】

平取町（額平川流域）と北海道内のアイヌ語地名

植物の名前が付いている地名

平取町アイヌ文化保全対策室

オニガヤ
シキ
カヤ
キ

オニガヤ生えているさわ
シキウシナイ
（平取町旭）

カヤをかる所
キタプ（霧多布/浜中町）

イタドリ生えているさわ
クッタルシナイ
（平取町貫気別）

イタドリ
クッタラ

イタドリぐんせいする所
クッタルシ（虎杖浜/白老町）

＊イタドリの漢字は虎杖であり、訳名を使って地名としたもの

エゾノリュウキンカ
プ　イ

エゾノリュウキンカ生えているさわ
プイウシナイ
（平取町旭）

プイ草ある所
プイオマプ（笛舞/えりも町）

エゾノリュウキンカは俗に「ヤチブキ」とも呼ばれ、食用にもなる

トドマツ
フプ

トドマツ場所さわ
フプシナイ
（平取町旭）

トドマツぐんせいする川
フプシナイ
（布伏内/阿寒町）

木
ニ

木たくさんある所
ニオイ（平取町荷負）

木つまる所
ニムオロ（根室/根室市）

★この本にでてくるアイヌ語地名の場所

平取町以外のアイヌ語地名：【財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構『アイヌ語地名リスト』2004年】